

どんな子みっけ？

収穫祭も無事に終わり、今年度のネイチャーランドの活動がすべて終了しました。今年の収穫祭は総勢370名、90家族が参加。一方、夏の暑い盛りでのQ園隊は、全体で70名満たないほどの人数。取っても取っても終わらない草取りを思い出すとナヤマシイ盛況ぶりですが、今年も美味しい秋をみんな味わうことが出来、改めてQ園隊に足を運んで下さったご家族に感謝です！

ご家族でQ園隊にくると、幼稚園では見られない子どもたちの姿があります。例えば、みんなが畑で必死に草取りをしている中、「暑い〜」「疲れた〜」と泣いて抱っこされっ放しになってしまったり、虫とりに夢中でお仕事しなかったり。先生に「一緒にお仕事しましょう！」と誘われても、なかなか戻って来ません。こんな風に、お家の方が一緒だと、とかく甘えん坊になってしまうことが多いのです。そして、年齢が小さければ小さいほど、泣いたり抱っこをせがんだりする姿になって表れ、また、良し悪しがわかってきたお兄ちゃんたちも、“人がいっぱい集まる場所では怒られない〜”など、いろいろなことを察知して、調子にのってしまうのもあるでしょう。しかし、どの子ども幼稚園では、お友だちと一緒にしっかりと出来る子たちばかりですから、“ちゃんと出来るのにもったいない！”とってしまうのです。

今回の収穫祭で、そんな甘えん坊サイクルを脱した年少さんがいました。

8月のQ園隊では、熱中症になりそうな暑さの中、お母さんの背中に乗っかりっぱなし。熱いから〜初めてだから〜と、お母さんはおんぶしたまま、我が子の分まで草取りをしていました。“お家ではいつも甘えん坊さんなんだな〜”と思って様子を見ながらも、「赤ちゃんじゃないんだから！」「お母さんが倒れちゃうよ！」と先生たちが声をかけていましたが、なかなか響きませんでした。

そんなことも経ての収穫祭。その年少さんがQ園隊の時とは違い、畑で泥だらけになっておもしろい夢中になっている姿を発見しました。思い返してみると、秋たんけんでも変化がありました。柿の木に自分で登ろうと挑戦し、落ちて何度も尻もちをついていましたが、それでも諦めずに頑張っていたのです。残念ながら高くは登れませんが、頑張っていた姿を年長さんが認めてあげ、柿を分けてもらえたのです。（その柿は渋〜い方でしたが・・・）

自分で掘ったことや自分で登ったことなど、自分でやった体験が自信となって、収穫祭での姿に繋がっているのではないかと思います。その姿にお家の方は大変喜んでいらっしゃると思います。ご家族でQ園隊に参加して来たからこそ、お子さんの成長をキャッチすることができたのでしょうか。思わぬ大収穫です！

今回、ネイチャーランド初挑戦だった方も、Q園隊はお子さまの成長に出会えるチャンスでもあるんです。ぜひ、Q園隊にご参加ください。



こんな

「こんな」は、ようちえんで起こる
こんなとき・こんなこと・こ～んなにを
折々お届けします。

さるかに合戦

秋たんけんでは、年長さんにネイチャーランドのおすすめコースを案内してもらった年少組。食後も一緒にあちこちを探検していました。すると、“たわわの森*”にたわわの柿を発見！「『自分でとれるなら食べてもいい』って！」と聞いて、年長さんがどんどん登って行きました。それを見て年少組も木に登り始めます。でも枝には手が届かず、支柱にしがみつくのが精いっぱい。そのうちに、「ぼくの分もとってよ〜」と手を伸ばすと、「行くよ！」と柿の実を落としてくれました。その様子はまさに『さるかに合戦！』

昔話はイタズラおサルさんですが、年長さんの優しさに安心して、また更に、大好きになり憧れたことでしょう。



年少組

【たわわの森】 畑のゲートを入れて右手に、柿・栗・レモン・キウイの果樹園があります。卒園記念で寄贈していただいたものです。

カブトムシの幼虫



落ち葉の栄養をもらって、今年もカブトムシの幼虫がゴロゴロ～育ちました！

ちょうど1年前の収穫祭。泣いて泣いて～。ご家族で楽しみにしていたさつまいも掘りが、殆ど出来ずに過ぎた女の子がいました。

腐葉土を畑にまいていると、ゴロツと転がってきた白くてま～るい物体。よく見ると、足が沢山生えていて、体がウニョウニョ動いて・・・それを見た途端、「ぎゃーっ」と泣き出したのです。その正体は、カブトムシの幼虫でした。よっぽど衝撃的だったのでしょう。

しかし！今年は違いました。なんと、「先生見てーっ！」ととびきり大きいサイズの幼虫を見せにきてくれたのです。昨年の大泣きがトラウマになって、虫嫌いになってしまうのではと心配していましたが、驚きの体験からたくましく成長したようでした。

こ～んな子みっけ！



枝にまたがって・・・
天然のシーソー！



どんぐり星人1号！2号！

Illustration by nishin

「渋くないよ！」

柿の木をすっかり裸ん坊にして、柿の実をみんなでガブッ！美味しい顔が並ぶと思いきや、「うえ～っ」の声。渋柿が紛れ込んでいたのです。昨年、幼稚園で食べたことをやっど！？思い出して「渋柿だ！」と年長組。



「美味しそ～」



「マズっしぶ柿だった！」

こんなお顔なかなか出来ない！
きつと、味覚だけでなく、表現力も磨かれていきます。

「シブっ！」とお隣へ柿を渡し合ったりしながら、“怖いもの見たさ”ならぬ、“渋い柿食べてみたさ”で、次々と口にして、「シブっ！」と、渋さを共有し合い、なんだか楽しそうでした。

そうしているうちに「〇〇先生に食べさせちゃおうよ！」と、何やら企んでいる声が聞こえてきました。渋さ仲間を増やしたくって、先生をターゲットにしたようです。

「〇〇先生！この柿すごく美味しいよ！食べてみて！」「これぼくたちが木に登って採ったんだよ！」と子どもたち。執拗に説得する様子から、先生はなんとなく察知して「今お腹がいっぱいな～」と抵抗して見せます。すると、「大丈夫、渋くないから！」と、思わずネタばらし！ばらしてしまったことにも気づいているのかいないのか？一生懸命勧めていました。

何かを企んで同じ目的に向かうのですから、相談しなくたって、その団結力は、子どもでもあなどれないのです。仲間意識は渋さだけではなく、美味しい仲間ともたくさん味わってほしいですね。

